

日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会（第25期・第5回）
議事要旨

日時：令和5年9月26日（火）17:30 - 19:00

会場：遠隔会議（主催会場：立命館大学衣笠キャンパスアート・リサーチセンター）

出席（敬称略）：

田中（立命館大）、藤代一成（慶應義塾大、オブザーバー参加）、伊藤貴之（お茶の水大、オブザーバー参加）、北川（サイバネットシステム（株））、鈴木（立命館大）、加藤（東洋大）、坂本（神戸大）、山口（奈文研）、坂野（愛知学院大）、安達（（株）シュルード設計）、宮地（東京都市大）、大倉（芝浦工業大）、明和（京都大）、應矢（京都国際マンガミュージアム）、李（立命館大）、小山田（大阪成蹊大）、鹿内（亜細亜大）、長谷川（立命館大）

議事録

(0) 前回議事録要旨の承認について

承認された。

(1) 「見解：科学的知見の創出に資する可視化－ビッグデータのビジュアル分析を基盤とする分野横断型デジタル視考－」の審査状況報告

- ・ 本日（9月26日）「科学的知見の創出に資する可視化分科会」発出の「見解」として、原稿の第7校が日本学術会議HPで公開された。
- ・ 出された意見
 - 発出された見解は、各小委員会メンバが行っている研究も含めて最先端のことも盛り込んだものになっており、良い内容である。
 - 査読における修正原稿の提出までの期間が短いなど、査読のプロセスに関しては次期以降で改善していただきたい

(2) 話題提供①：デジタル視考基盤環について（「可視化の新パラダイム策定小委員会」委員長・藤代一成氏）

- ・ 発出された「見解」における藤代小委員会の担当部分を中心に説明がなされ、それを受けて質疑を行った。

(3) 話題提供②：社会科学とデジタル視考（「社会に資する可視化の小委員会」委員長・伊藤貴之氏）

- ・ 発出された「見解」における伊藤小委員会の担当部分を中心に説明がなされ、

それを受けて質疑を行った。

(4)25期の小委員会活動の総括と次期に向けての課題

- ・ 本小委員会の活動の継続に関しては、日本学術会議の26期における委員会／分科会の構成などに関して未定な事が多いため、今後の状況を見極めた上で、改めて検討する。

(5)その他

- ・ 藤代氏より可視化関連の国内重要イベントとして、VisWeek Tokyo 2024 について紹介された。
- ・ 議事要旨の確認について、委員長へ一任されることが承認された。

以上